



↑イラストは町内6団体のコーラス、町出身の童謡作曲家・河村光陽の名曲を披露。

歌の協奏で響いた一体感の共創

福智町発足記念式典

11月12日に中央公民館で「福智町発足記念式典」が開催され、住民をはじめ来賓、職員など約500人が出席。新町誕生の喜びを分かち合いました。

町の体制が落ち着いてから開催する方針だった発足式典。待ちに待ったセレモニーが華やかに開幕し、市町村合併功労者の総務大臣表彰やこの日に合わせて制作された福智音頭が披露されました。主催者である浦田町長は「町の一体感を一日でも早く創出したい」とあいさつ。アトラクションでは、金田第13行政区郷土芸能保存会の獅子舞や町内合唱グループの歌声が披露されました。旧3町から出演した6団体が心をひとつに歌い上げた合唱は、合併後、着実に一体化へと近づいている印象を会場に伝え、感動的なフィナーレを飾りました。



↑祝賀ムードを高めた伝統芸能の獅子舞。

↑新町の記念すべき船出となった式典。

▼11月4日、5日の2日間、町内三会場（赤池・金田・方城）で、文化祭と商工まつりが行われた。両日とも好天に恵まれ、どの会場も人出が多く、活気にあふれていた。金田・方城の取り組みを見るのは初めてだったが、それぞれに工夫がなされ、一寸した驚きを感じた。とりわけ、方城会場の開会式では、伝統芸能の「ツッココさんの餅つき唄」が披露され、その場の雰囲気を一気に盛り上げていた▼ちなみに、ツッココさんとは、出前の餅つき屋さんのことで、昭和初期のころ、きねや白の家庭の依頼で、正月用の餅をついてあげていたそう。わたしも、その唄と踊りにいささか気持ちも高揚し、一気に三つの会場を見て回った。出展されていた作品は、いずれも心のこもったものばかりで、改めて、生きていることのすばらしさを思い知らされた▼文化と言え、何か難しいものと考えてしまいがちだが、わたしは、一人ひとりの生き方やその表現が、文化だと思っている。個々の文化は、環境や地域性等多くの要因により、一定の方向にまとめられ、時の経過とともに、風土として根付いていくのではないだろうか▼フランス・カフカ賞を受賞した作家の村上春樹さんは、雑誌のインタビューに、「才能とは、何か目標を定めて、ずっと努力し続けられる方だ」と語っている。そうした才能（文化）を、町内のあちこちに育てられるような環境づくりこそ、行政の使命ではないかと思う。願わくば、町全体に才能（文化）という花を、咲かせたいものだ。

浦田 弘二



▼11月4日、5日の2日間、町内三会場（赤池・金田・方城）で、文化祭と商工まつり